

2022年05月31日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ECB(欧州中銀)の金融政策】

先週(2022年5月23日)の欧州時間に、ラガルドECB総裁(欧州中銀総裁)が、
「7月の会合で利上げが可能になる」
「7-9月期末までに、マイナス金利を終了できる状態にある可能性が高い」
と発言したことで、外国為替市場では「ユーロ買い」が強まった。

+++++

前回(2022年4月14日)のECB理事会で、QE(量的金融緩和)政策である資産買い
入れ制度(APP)の終了時期が、7-9月期になる旨を示唆しており、従来の発言を強調し
た格好だ。

ユーロの政策金利の利上げの時期に関しても、従来の発言では、QEの終了後としていた
ので、その発言内容に矛盾はない。

別な言い方をすれば、次のECB理事会は、来週(2022年6月9日)に予定されてい
るが、この6月のECB理事会では、政策金利の引き上げは無い、ということ。

ただし、その次のECB理事会が2022年7月21日に予定されており、この7月の会合で、
ユーロの政策金利の引き上げが実施されるであろう、ということだ。

+++++

マーケット(外国為替市場、株式市場、金融市場など)は、先読みして動くので、ECB
(欧州中銀)が利上げに向かうことを織り込んで、「ユーロ買い米ドル売り」「ユーロ買い
円売り」に動いた、ということだ。

+++++

ただし、ECBの利上げは7月からであり、なおかつ、その利上げ幅が、0.25%なのか、
0.50%なのか、現時点では、定かではない。

+++++

+++++

現時点では、実質的な金利の上昇幅(上昇のスピード)は、米国(FRB)が欧州(ECB)
を上回っている。

かつ、欧州（ECB）が、米国（FRB）の上昇のスピードに、すぐに追いつくことは考え難い。

だから、米ドル金利の上昇は、ユーロ金利の上昇を凌駕することになる。

+++++

ただし、米ドル金利の上昇は、マーケット（外国為替市場など）で、大いに織り込まれている。

それに対して、ユーロ金利の上昇は、まだ十分に織り込まれていない、と思料する。

だから、先週（2022年5月23日）のラガルドECB総裁の発言をきっかけに、マーケットが「ユーロ買い」に、大きく反応したのだ、と判断している。

+++++

+++++

（2022年5月31日東京時間13：30記述）